

2025年度

科目名称	環境教育概論
授業コード	AC213
英語名称	Introduction of Environmental Education
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	古瀬 浩史
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	（Ｂ）自己実現能力 本講義は、現代社会の最重要課題の一つである環境問題の解決、持続可能な社会の実現に向けた教育的なアプローチとして「環境教育」を扱い、定義、歴史、位置づけ、特徴、手法、事例等について学ぶ。他の授業で学んだ科学・教育等に関する知識や技能の実践的な活用を考える機会とする。新聞等のメディアに掲載される、環境に関する新しいトピックや、環境教育実践事例を扱い、グループワークやディスカッションも取り入れて環境問題全般への理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	講義は環境教育の専門団体の起業・経営経験のある教員が担当する「実践的科目」である。学校や社会教育において行われている環境教育のプログラム、特にアニマルサイエンス領域に関係したプログラムを講義内で実際に行い、それらの背景や考え方を支えている理論について学ぶ。
到達目標	・環境教育とはどのようなものか、概説できるようになる。 ・環境教育の方法（プログラム）についての基本的な理解を得る。 ・SDG's に向かう環境教育の実践の機会や方法を具体的にイメージできる。 ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「人と動物の『共生』」を実現しようとする教育的なアプローチを扱い、同時に「コミュニケーション力」を重視した内容とする。
計画・内容	【計画・内容】 1) イントロダクション：教育によって世の中を変えることは可能か？ 本講義に設定している受講ルールや、評価基準等について 2) 環境教育とはなにか。定義、環境教育の必要性、歴史 3) 環境に関わる諸問題１：飢餓、格差、南北問題 4) 環境に関わる諸問題２：環境問題の歴史（公害、地球環境問題） 5) 環境に関わる諸問題３：気候変動、パリ協定 6) SDG's（持続可能な開発目標） 7) 環境教育の事例１「国立公園とインタープリテーション」 8) 環境教育の事例２「実践現場からの報告」（学内等からゲストのケースを想定） 9) 環境教育プログラム体験１ パッケージ・プログラム「プロダクト・ワイルド」等 10) 環境教育プログラム体験２ 11) 環境教育プログラムと学習理論 12) 環境教育プログラム体験３「食に関するプログラム」 13) 環境教育プログラム体験４「コンセンサスづくりのプログラム」 14) 公的教育と環境教育 15) 授業全体のまとめ、マインドマップの作成
授業の進め方	授業の進め方 ・着席場所を指定する場合がある。 ・講義形式および一部ワークショップ形式で行う。大人数の教室で可能な範囲でアクティブ・ラーニング的な方法で進める。（他の参加者とのコミュニケーションを含む） ・関連した分野のゲストによる話題提供を含める。 ・プログラム体験では室外（キャンパス内）で実施する場合がある。 ・ワークショップでの成果物、ミニレポートなどの課題を出題する。

2025年度

授業の進め方	・講義資料はWebClassからPDFファイルで提供する ○授業時間外の学習 ・予習：参考図書、講義で紹介する本を読む ・復習：講義ノートや講義資料を元に復習を行う。
能動的な学びの実施	講義はグループワークを含み「能動的な学びの科目」に該当する。 知識の習得そのものよりも、講義で得た知識を本人が自らの経験や関心と結びつけて「どのように考えたか」を重視する。
授業時間外の学修	・新聞での記事探し（約15時間） ・参考図書・資料を読む（15時間） ・講義内で提示する課題に関係する作業（30時間）
教科書・参考書	参考書： インタープリター・トレーニング ―自然・文化・人をつなぐインタープリテーションへのアプローチ」ナカニシヤ出版 日本環境教育フォーラム編「日本型環境教育の提案」小学館 レイチェルカーソン著「センス・オブ・ワンダー」新潮社 など。（その他は授業で紹介）
成績評価方法と基準	数回出題するのミニレポート、グループワークの成果物（約50%）、授業最終回の時間内に作成するレポート内容（約50%）
課題等に対するフィードバック	・学生の提出物やコメントペーパーをもとに次回授業で追加説明や講義への反映を行う。 ・学生の発表の都度コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・近くの環境教育施設の見学、公募プログラムへの参加など、積極的に自主学習して欲しい。 ・他のほとんど全ての授業が、環境教育に関係している。特に「生態学」と名のつく授業は強く関連する。 ・2級ビオトープ計画管理士を一部試験免除で受ける際の前提科目の一つとなっている。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 非対面の場合はZOOMを用いたオンラインでの講義とする。 成績評価方法と基準」 対面実施の場合と同様。 その他 内容に記述している「環境教育プログラム体験」は非対面の場合、非対面で実施できるプログラム体験の内容に切り替える。

2025年度

科目名称	地域環境計画論
授業コード	AC261
英語名称	Field & Community Planning
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	古瀬 浩史
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	地域環境計画を概説し、環境問題や関連する法規の理解、環境計画に必要な生態学の概念等について学ぶ。後半には「持続可能性」および「動物（自然）と人が共生できる社会の実現」の観点から、NPO活動や社会起業による地域計画の事例、地域おこしのコンセプトを扱う。それらにより実際の取り組みを動機付ける。 主に、市民の参加によって実現するボトムアップの環境計画を想定し、他の専門科目で学んだ動物学や景観デザイン等の知識の応用的な活用、統合を目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	講義は、環境保全NGOでの勤務経験、環境教育の専門団体でエコツーリズムや自然学校等による地域づくり計画の経験を豊富に持つ教員が担当する。講義を踏まえた上で学生自らの視点でプランニングを行う「実践的科目」である。
到達目標	・地域環境計画の概要と、周辺概念を理解する。 ・専門科目で学んだ、動物学等の知識を環境計画に応用する視点を持つ。 ・持続可能性を意識した地域の取り組みを意識できるようになる。 ・ワークショップ的な手法によるプランニングのプロセスを修得する。 ・カリキュラム・ポリシーに示された「社会において新たな領域を開拓する人間を育てる」ことを重視、「コミュニケーション力」や「プランニング技術」を重視する。
計画・内容	1) イントロダクション：地域環境計画とは何か 2) 環境保全、動物の保護へのコミットメント 3) 地域の環境と保全／環境関連の法規 4) 生物多様性／レッドリスト 5) 地域環境計画に関わるトピック（ゲストによる話題提供） 6) 「里地里山」と「植生」 7) 里地里山を考えるために必要な生態学の概念1「遷移」 8) 里地里山考えるために必要な生態学の概念2「攪乱」 9) 里地里山を考えるために必要な生態学の概念3「エコトーン」 10) 保全戦略、愛知ターゲット、SDG's 11) 具体的な取り組み事例1 自然学校とソーシャルイノベーション 12) 具体的な取り組み事例2 エコツーリズム、エコミュージアム 13) 自らが行う（想定）地域環境計画を企画する1 地域資源をさがす 14) 具体的な取り組み事例3 フットパス／クラインガルテン／固定種の保存 15) 自らが行う（想定）地域環境計画を企画する2 「企画」のプロセス 「まとめ」、「理解度の確認」、「総括」等
授業の進め方	○授業の進め方 ・前半は講義中心。参加性のある授業とするため質疑応答を重視し、毎回の授業の後半に、質疑応答の時間を取る。関連した分野のゲストによる話題提供を含める場合がある。 ・後半は、講義とディスカッション、グループワークにより、地域環境計画に係るプロジェクト企画の課題に取り組む。 ・アクティブ・ラーニングの要素を含めた授業進行とする。

2025年度

授業の進め方	・「地域資源」、「地域環境計画の企画」等に関連して課題を出し、時間外に作業を行うことを求める。
能動的な学びの実施	総括レポートとして、地域環境計画の企画の提案を求める。その過程で、地域の具体的な問題に関する調査や、アイデアの検討などを含む。総括レポートの企画の評価にはルーブリックを用いる。
授業時間外の学修	・地域資源探し：合計15時間程度 ・資料さがし、資料読み：合計15時間程度 ・企画・提案書作成：合計30時間程度
教科書・参考書	教科書：なし。適宜授業資料をCampus Squareで共有する。 参考図書： 「ピオトープ管理士 資格試験 公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター 「地元学をはじめよう」岩波ジュニア新書 「さとやま——生物多様性と生態系模様」岩波ジュニア新書 「ソーシャルイノベーションとしての自然学校」学芸出版社 「地域環境科学概論」理工図書 「生物多様性入門」岩波ブックレット
成績評価方法と基準	○成績評価方法と基準 提出物、ミニレポート等での評価（50％） ・地域環境計画の概要、周辺概念の理解など、講義内容の理解 総括レポートによる評価（50％） ・持続可能性を意識した地域の取り組みを意識できているか。 ・プランニングのプロセスの理解。 ・総括レポートの評価にはルーブリック評価を用いる。
課題等に対するフィードバック	・提出物、ミニレポートに関して、次回授業で取り上げコメントや追加の講義でフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	事前に「環境教育概論」を履修することが望ましい。 事前に「陸生哺乳類学」「水生動物学」「野生鳥類学」「両性・爬虫類学」などの専門科目のどれかを履修していることが望ましい。 ピオトープ管理士の資格取得を目指す学生は履修することが望ましい。2級ピオトープ計画管理士を一部試験免除で受ける際の前提科目の一つとなっている。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合の 授業の進め方 ZOOMでの非対面授業とする。 グループワークは個人ワークに変更する。 成績評価方法と基準 対面の場合と同様

2025年度

科目名称	動物園水族館基礎論
授業コード	AC107
英語名称	Zoo and aquarium fundamentals
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	佐渡友 陽一, 並木 美砂子, 加賀谷 玲夢, 野田 英樹
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	動物園や水族館は、本学科カリキュラムポリシーである「人と動物との共生について科学的視点で考える」にあたり、多くの現代的問題を提供している。これらの課題を、実際に動物園の運営や飼育現場での経験を積んだ教員が提起し、その解決の方向性について考える。
科目に関連する実務経験と授業への活用	動物園の展示・飼育事例・野生動物保全・教育・運営等の部分では、公立動物園の飼育展示や運営に関わった経験を有する教員が講義する（並木美砂子・野田英樹・佐渡友陽一）。
到達目標	動物園・水族館の現状と背景（歴史）を理解した上で、その社会的役割と可能性について、自分の言葉で説明できるようになること。 カリキュラムポリシー： 2．専門科目を学ぶための基礎となり、かつ動機づけとなる専門基礎科目を配置する。 ディプロマポリシー： 3．「人と動物の『共生』」についての諸問題に関心をもち、合理的な視点から分析・理解して問題解決に寄与できる能力を身につけている。
計画・内容	1）ガイダンス 授業の進め方、教員紹介、評価方法についての説明（佐渡友ほか） 予習：授業項目を確認すること。シラバスの内容を確認し、質問があれば用意しておくこと。 復習：授業内容を確認し、ノートを整理すること。 2）日本の動物園と展示（野田） 予習：授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習：授業内容を確認し、ノートを整理すること。 3）日本の水族館と展示（1）（加賀谷） 予習：授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習：授業内容を確認し、ノートを整理すること。 4）日本の水族館と展示（2）（加賀谷） 予習：授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習：授業内容を確認し、ノートを整理すること。 5）動物園・水族館と動物園学・水族館学の課題（佐渡友） 予習：教科書第1章を読み、課題に備えること。 復習：授業資料やノートを確認し、最終レポートの準備をすること。 6）動物園と野生動物保全（野田） 予習：授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習：授業内容を確認し、ノートを整理すること。

計画・内容	7) 水族館と野生動物保全(加賀谷) 予習: 授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習: 授業内容を確認し、ノートを整理事務すること。 8) 現代日本の動物園・水族館とその課題(佐渡友) 予習: 教科書第2章を読み、課題に備えること。 復習: 授業資料やノートを確認し、最終レポートの準備をすること。 9) 動物園における教育(並木) 予習: 授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習: 授業内容を確認し、ノートを整理事務すること。 10) 水族館における教育(加賀谷) 予習: 授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習: 授業内容を確認し、ノートを整理事務すること。 11) 欧米の動物園・水族館と動物園水族館の経営(佐渡友) 予習: 教科書第3章を読み、課題に備えること。 復習: 授業資料やノートを確認し、最終レポートの準備をすること。 12) 飼育動物のトレーニングとアニマルウェルフェア・動物園編(野田) 予習: 授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習: 授業内容を確認し、ノートを整理事務すること。 13) 飼育動物のトレーニングとアニマルウェルフェア・水族館編(加賀谷) 予習: 授業項目を確認すること。事前に配布された資料をよく読み、関連する情報をまとめておくこと。 復習: 授業内容を確認し、ノートを整理事務すること。 14) 動物園の歴史&日本と欧米の違い(佐渡友) 予習: 教科書第4章および5.1節、5.2節を読み、課題に備えること。 復習: 授業資料やノートを確認し、最終レポートの準備をすること。 15) 動物園・水族館の役割とあり方(佐渡友) 予習: 教科書第5章のうち5.3節以降を読み、課題に備えること。 復習: 授業資料やノートを確認し、最終レポートの準備をすること。
授業の進め方	・各回ともに予習内容の確認などのための課題を課し、これにより出欠を採る。課題の出し方は各担当教員が講義中に説明を行なう。
能動的な学びの実施	・該当しない。
授業時間外の学修	・予習については、教科書や掲示板に登録された資料を読み、疑問点などを抽出しておくこと。復習は資料および自分なりに情報収集により確認をしておくこと。(合計60時間程度)
教科書・参考書	予習を通じて、以下の教科書を通読する。 ・動物園を考える(2022)東京大学出版会、2,920円 参考書として ・動物園学入門(2014)朝倉書店 ・新版水族館学(2010)東海大学出版会 ・日本の水族館(2014)東京大学出版会 ・どうぶつたちの給食時間(2017)旅するミシン店
成績評価方法と基準	各回の課題(75%)および、最終レポート(25%)により評価する。

2025年度

課題等に対するフィードバック	・ 各回の課題および質問に対して、教員毎に次の担当回でフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・ 講義形式の動画を配信する。オンデマンド型を基本とする。 成績評価方法と基準 ・ 対面授業と同一の課題提出を提示された期限内に行うことにより「出席」とみなす。

2025年度

科目名称	動物園動物飼育展示論
授業コード	AC315
英語名称	Zoo animal management
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	野田 英樹
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	動物園の成り立ちと歴史を踏まえ、実際に動物園で飼育される動物たちを取り巻く現状や、これからの動物園に求められる役割について基礎的な知識を得る。そのうえで実際の飼育舎や展示場を参考に、各種動物園動物の基本的な管理方法を学ぶ。また「伝わる」展示手法や展示デザインについても議論を交わしながら学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立動物園で飼育展示業務と企画教育業務に携わった経験および環境行政官の経験を活かし、動物飼育の現状や動物に関わる各種法令と動物園の関係について教授する。
到達目標	【科目特有の知識・技能についての到達目標】 アニマルサイエンス学科のカリキュラムポリシーである「動物と人との共生」を深く考えるため、以下の目標を設定している。 1. 「動物園動物を飼育すること」の基本的な手法について理解する。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 2. 動物園の役割について、動物飼育運営側の視点から深く理解する。
計画・内容	(1) オリエンテーション（講義の進め方、動物園動物のイロハ） (2) 動物園の歴史と現在（鳥獣保護管理法関連を含む） (3) 動物とのふれあいと動物福祉（動物愛護法関連を含む） (4) 希少種保全とこれからの動物園の役割（種の保存法関連を含む） (5) 動物園動物飼育各論（大型草食獣） (6) 動物園動物飼育各論（小型哺乳類）（肉食獣） (7) 動物園動物飼育各論（霊長類）（有袋類その他） (8) 動物園動物飼育各論（希少鳥類） (9) 動物園動物飼育各論（猛禽類・小型鳥類） (10) 動物園動物飼育各論（爬虫類） (11) 動物園動物飼育各論（両生類） (12) 動物園動物飼育各論（魚類・無脊椎動物） (13) 展示デザイン（エンリッチメントと普及啓発） 繁殖計画と個体群管理（持続可能な動物園） (14) 動物園の運営計画（理想の動物園像） (15) まとめ（理解度の確認）
授業の進め方	講義内容をもとに小テストを出題する。講義資料は小テスト後に配布する。講義中は随時意見を求めるため指名することがある。 講義終了後、次回講義までに小テストを提出する。

2025年度

能動的な学びの実施	講義は双方向性を目指すため、常に自身の考えを持つことが望ましい。講義中にも随時発言を求める。
授業時間外の学修	講義終了後は講義内容を復習し小テストを期限までに実行する。また、最終テストに備え配布された講義資料を確認しておく（合計60分程度）。
教科書・参考書	村田浩一ら訳「動物園学」、村田浩一ら編「動物園学入門」、新・飼育ハンドブック（日本動物園水族館協会）等
成績評価方法と基準	小テスト（50％）、最終テスト（50％）の合計により判定
課題等に対するフィードバック	小テストで多くの受講者で理解不足であった点に関しては、次回以降の講義時に補足する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	小テストでは毎回の講義冒頭で紹介される動物種に関する出題があるため、遅刻をすると回答できなくなる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	対面授業用資料を映像化し、講義形式の動画に組み込み、配信する。オンデマンド型を基本とする。質疑については、課題提出時に質問ができ、コメント欄での回答を個別に行う。 評価は、対面授業と同一のミニ課題提出により「出席」とみなし、出席点は50点を満点とする。また、中間（8週目および15週目）におけるレポート内容により50点とする（8週目課題で25％、15週目課題で25％）。

2025年度

科目名称	動物園動物飼育展示論
授業コード	AC366
英語名称	Zoo Animal Management 2
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	野田 英樹, 藪田 慎司
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	動物園で飼育されている各種の動物について、それぞれの特性を踏まえ、どのような飼育管理展示手法が用いられているのかを具体的な事例をもとに学ぶ。また、各種動物の繁殖管理方法や、実際に動物園に勤務する際に必要となる施設設備、学芸業務、会計についても基礎的知識を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立動物園で飼育展示業務と企画教育業務に携わった経験および環境行政官の経験を活かし、動物飼育の現状や動物に関わる各種法令と動物園の関係について教授する。
到達目標	【科目特有の知識・技能についての到達目標】 アニマルサイエンス学科のカリキュラムポリシーである「動物と人との共生」を深く考えるため、以下の目標を設定している。 1. 「動物園動物を飼育すること」の具体的な手法について理解する。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 2. 動物園の役割について、動物を飼育展示する側から深く理解する。 3. 日本動物園水族館協会飼育技師認定試験合格レベルの知識と考察力を得ることを目標とする。
計画・内容	(1) オリエンテーション（講義の進め方） (2) 生態展示と行動展示 (3) 哺乳類の繁殖（繁殖総論） (4) 哺乳類の繁殖（サル類・肉食獣・草食獣・有袋類の繁殖） (5) 鳥類の繁殖（総論） (6) 鳥類の繁殖（各論） (7) 動物園と環世界（藪田） (8) 爬虫類の繁殖（季節変化による産卵誘引） (9) 両生類・魚類の繁殖（体外受精） (10) 動物死亡時の剖検、死因説明 (11) 標本作成・レクチャー・ガイド（学芸業務） (12) 動物園の設備（照明、換気、保温、植栽、給排水等） (13) 動物園広報・企画（マスコミ対応、機関誌発行） (14) 動物園の会計・経理（動物園運営に係るお金の話） (15) まとめ（理解度の確認）
授業の進め方	講義内容をもとに小テストを出題する。講義資料は小テスト後に配布する。講義中は随時意見を求めるため指名することがある。 講義終了後、次回講義までに小テストを提出する。
能動的な学びの実施	講義は双方向性を目指すため、常に自身の考えを持つことが望ましい。講義中にも随時発言を求める。
授業時間外の学修	講義終了後は講義内容を復習し小テストを期限までに実行する。また、最終テストに備え配布された講義資料を確認しておく（合計60分程度）。

2025年度

教科書・参考書	村田浩一ら訳「動物園学」、村田浩一ら編「動物園学入門」、新・飼育ハンドブック（日本動物園水族館協会）等
成績評価方法と基準	小レポート（50％）、最終テスト（50％）の合計により判定
課題等に対するフィードバック	小レポートで多くの受講者で理解不足であった点に関しては、次回以降の講義時に補足する。
オフィスアワー	Campusquareを参考のこと
留意事項	小テストでは毎回の講義冒頭で紹介される動物種に関する出題があるため、遅刻をすると回答できなくなる。 前期の動物園動物飼育展示論を受講しておくこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	対面授業用資料を映像化し、講義形式の動画に組み込み、配信する。オンデマンド型を基本とする。質疑については、課題提出時に質問ができ、コメント欄での回答を個別に行う。 評価は、対面授業と同一のミニ課題提出により「出席」とみなし、出席点は50点を満点とする。また、中間（8週目および15週目）におけるレポート内容により50点とする（8週目課題で25%、15週目課題で25%）。

2025年度

科目名称	動物園学
授業コード	AC351
英語名称	Zoo Science
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	佐渡友 陽一
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	動物園は、野生動物を都市に持ち込み、展示する施設である。動物園が成立、存続するためには、野生動物の生息環境との関わりや、都市における動物園の意義を考えなければならない。「社会における動物園の存在意義」「動物園はどうあるべきなのか」について、公立動物園で教育普及や予算決算等に従事してきた教員が、その経験を活かして実証的に講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立動物園で教育普及や予算決算等に従事してきた教員が、その経験を活かして、動物園が日本社会においてどのような意味を持ち、運営されているかを実証的に講義する。
到達目標	社会における動物園の位置づけと、よりよいあり方を考慮するための視点を獲得する。動物園に関係する多様な意見を学ぶことを通じて、各自の動物園観を検証すると同時に、動物園というものに関与する場合の社会的責任について自覚を養う。 カリキュラムポリシー： 3．学年進行に伴って「人と動物の『共生』」についての科学的な専門知識と調査・研究手法を身につけるための授業科目をバランスよく学べるように編成する。 ディプロマポリシー： 3．「人と動物の『共生』」についての諸問題に関心をもち、合理的な視点から分析・理解して問題解決に寄与できる能力を身につけている。
計画・内容	1) 動物園学 1：何のための動物園か。動物園を取り巻く環境とは 予習：教科書の「はじめに」「第1章」（29ページまで）を熟読し、小テストに備える 2) 動物園学 2：動物園の経営資源。誰が、何のためにカネを出すのか？ 予習：教科書の「6.1」「2.1」「2.2」を熟読し、小テストに備える 3) 歴史 1：動物園前史と欧州・米国・日本における動物園の成立 予習：教科書の「2.3」～「2.8」（50～93ページ）を熟読し、小テストに備える 4) 歴史 2：日本における動物園の広がりと発展 予習：教科書の「6.2」「6.3」「2.10」を熟読し、小テストに備える 5) 歴史 3：ワシントン条約・パンダ・展示革命～現代の動物園に至る道 予習：教科書「2.9」「5.2」を熟読し、小テストに備える 6) 経営 1：現代日本における動物園の利用者と設置者の実像 予習：教科書「3.4」「7.1」を熟読し、小テストに備える 7) 収集と保全：動物園を成り立たせるために 予習：教科書「3.1」「3.2」「3.3」「3.5」を熟読し、小テストに備える

2025年度

計画・内容	8)飼育と動物福祉：動物園が存続するために 予習：世界動物園水族館保全戦略の前半（33ページまで）を熟読し、小テストに備える 9)展示：動物園が魅力的であるために 予習：教科書「4.1」～「4.5」を熟読し、小テストに備える 10)教育：動物園は何を、どうやって伝えるのか 予習：世界動物園水族館保全戦略の後半（34ページから）を熟読し、小テストに備える 11) 法律：動物園を取り巻く法制度 予習：教科書「4.6」「5.1」を熟読し、小テストに備える 12) 経営2：動物園の類似施設と社会的環境 予習：教科書「7.2」～「7.5」を熟読し、小テストに備える 13) 経営3：欧米における動物園経営 予習：世界動物園水族館動物福祉戦略の前半（43ページまで）を熟読し、小テストに備える 14)動物園学3：動物園はいかにあるべきか 予習：世界動物園水族館動物福祉戦略の後半（44ページ以降）を熟読し、小テストに備える 15)まとめ：これまでの講義内容について、理解度を確認する
授業の進め方	・ CampusSquareでレジュメを配布し、必要に応じてスライドを利用して講義を進める。
能動的な学びの実施	該当しない
授業時間外の学修	・ 毎回の小テストは復習問題と予習問題から構成し、WebClassで提出を求めるので、教科書の指定範囲を熟読して予習を行うと同時に、配布資料と講義ノートを整理し学習を深めること。（合計60時間程度）
教科書・参考書	予習を通じて、以下の教科書を通読する。 ・ 日本の動物園、石田おさむ、東京大学出版会、4,400円
成績評価方法と基準	成績は、 毎回課す小テスト（第1～14回各5点、第15回30点）に、 講義への積極的な参加（発言や質問等）を加味して、総合的に評定する。
課題等に対するフィードバック	・ 小テストについては、次回授業開始時にフィードバックを行う。 ・ 学生からの質問については、LINEのオープンチャットを中心にフィードバックを行う。
オフィスアワー	・ CampusSquareを参照
留意事項	・ 動物園水族館基礎論を履修済であること。 ・ 学芸員課程を履修していることが望ましい。 ・ 動物園について卒業研究を行う可能性のある学生は、必ず履修すること。特に動物観・動物園学研究室（担当：佐渡友）で動物園の研究を行なう場合には、本科目の単位取得が必須である。 ・ 第15回の小テストは全体に関する内容であり、配点が高いので留意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・ 小テストのフィードバックを含めた前半分はリアルタイムZOOMで行った上で、講義内容について動画配信する。 成績評価方法と基準 ・ 原則として変更はないが、まとめの小テストを含めてWebClassで提出を求める。

2025年度

科目名称	動物病原微生物学
授業コード	AC153
英語名称	Animal pathogenic microbiology
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	渡辺 隆之
記入不要 ナンバリ ングコード	AG324A01
授業の概要	A) 社会的基礎能力 動物と人を取り囲む環境には様々な微生物が存在する。それらの微生物は時に動物や人に危害をもたらす感染症の原因となりうる。動物に感染症を引き起こす、病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）の基本的な性状と動物・人に対する病原性について講義する。動物と触れ合う機会の多いアニマルサイエンス学科の学生が習得すべき内容が多く含まれる。公衆衛生学という学問を理解するためにも病原微生物を学ぶ必要がある。また、免疫学についても学ぶ。生体防御を知ることによって生命の疾病への対応が明らかとなる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	獣医師として動物病院を開業していた経験をふまえ、実際に現場である動物病院内で自分が経験した病院内で発生した感染症ならびに微生物について話をする。また、検査会社をやっていた経験より、学生に感染症の性質に関する深い知識を教えられと考えている。
到達目標	1.豊かな教養と倫理観をみにつける。微生物の種類と基本的な性状について理解を深める。 2.新型コロナウイルスも第2類か第5類となった。人と動物の共生というテーマはアニマルサイエンス学科の骨子である。感染症を通して人と動物の共生を模索したい。 3.国際的視野に立ち、人や動物における病原微生物や免疫の基礎概念を修得し、疾病や感染防御について理論的に分析、説明する力を養ってもらいたい。応用分野である動物保健衛生学や公衆衛生学をより理解し、活用ならびに考察するために必要な分析力を身につけることができる。 4.動物病原微生物学という科目は医学や獣医学においては基礎分野の科目群のひとつである。微生物ならびに免疫とは何かを理解してもらい、微生物単体に興味をもってもらうことにより基礎分野の専門知識を修得できる。 5.学科の卒業要件単位以上を修得し、卒業研究を完了すれば、学科として育てたい人間像について十分に身につけていると認められる者に学士（理学）の学位を授与する。
計画・内容	1) 微生物学とはなにか 2) 微生物の形態 3) 微生物の種類ならびに病原性 4) 細菌の性質としての形態と特徴 5) 細菌の性質としての培養、環境、栄養 6) 真菌の性質としての形態と特徴 7) 真菌の性質としての増殖

2025年度

計画・内容	8) 原虫の性質としての形態と特徴 9) 原虫の性質としての環境ならびに感染様式 10) ウイルスの性質としての形態と特徴 11) ウイルスの性質としての細胞培養、増殖、分類 12) 学生による課題発表 13) 感染とその防御、生体防御機構とその成り立ち 14) 微生物学各論 15) 総括
授業の進め方	講義は、パワーポイントを使用して授業を進める。また、参考書およびプリントを用いる。現実の症例をできるだけ多く紹介して理解を深める。1時限を使い学生に課題発表をさせる。授業を履修するにあたって、授業時間外に予習ならびに復習をする。予習復習はノートを作ること。ネットに頼らず参考書等で調べること。調べた内容は必ずノートに記すること。 予習：予習時間は各項目を最低20分とする（合計30時間）：1) 微生物にはどのようなものがあるか調べる。2) 微生物の形態にはどのようなものがあるか調べる。3) 微生物の種類ならびに病原性にどのようなものがあるか調べるに出した課題をまとめましょう。4) 細菌の性質としての形態と特徴にどのようなものがあるか調べる。5) 細菌の性質としての培養、環境、栄養を調べる。6) 真菌の形態にどのようなものがあるか調べる。7) 真菌の増殖にどのようなものがあるか調べる。8) 原虫の形態ならびに特徴にどのようなものがあるか調べる。9) 原虫の性質ならびに感染様式にどのようなものがあるか調べる。原虫は環境中においてどのような生活環をしているか調べる。10) ウイルスの形態ならびに特徴にどのようなものがあるか調べる。11) ウイルス細胞培養、増殖、分類を調べる。12) 学生による課題発表。13) 感染とその防御、生体防御機構について調べる。14) 微生物の各論として疾病について調べる。
能動的な学びの実施	該当しない。
授業時間外の学修	復習：復習は項目ごとに最低20分（合計30時間）とする。 予習・復習の合計時間は60時間とする。
教科書・参考書	参考書：吉田真一 他 系統看護学講座 4 微生物学（医学書院）
成績評価方法と基準	・成績は期末試験（90％）、小テスト（10％）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえ期末試験を受けても、小テストを提出していたとしても成績を不可とする。 ・小テストは返還して答え合わせをする。 ・資料配布に関しては講義の進み具合を見ながら、また、小テストの出来具合に合わせて授業内容にあった資料を配布する。
課題等に対するフィードバック	小テストに関しては、講義中に補足する。
オフィスアワー	キャンパススクエアを参照
留意事項	動物病原微生物学は、医学や獣医学において基礎科目に位置づけられており、動物を学ぶものが、微生物や免疫を勉強できるいい機会でもあります。動物に触れることが多い学科であるので、他の科目や実習でも微生物学についての知識が活かされると推測される。今後、履修してほしい科目は、応用科目の動物保健衛生学ならびに動物検体検査学、専門科目の動物疾病学である。動物病原微生物学は、1年生の基幹科目でもあるので必ず履修することが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法」	非対面の場合、できればzoomでの講義を行いたい。zoomでの講義であれば通常の対面講義と同じ進め方をする。もし、何らかの事情でzoomでの講義が行えない場合は課題形式の講義として行う。この場合は項目に準じて課題をだす。

2025年度

価方法と基準」	非対面で講義の場合、試験が非対面で行うことになった時の成績のつけ方： ・成績はレポート（試験様式）（50％）、講義単元ごとのレポート（50％）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえレポート、講義単元ごとのレポートを提出していたとしても成績を不可とする。これらはキャンパススクエアの掲示板で指示をしてメールで提出とする。 ・講義単元ごとのレポートは返還はしないものとする(メールなので手元に残る)。レポート（試験様式）に関しては試験に準ずるので返還は行わないものとする。 ・資料配布に関しては掲示板を確認のこと。授業内容にあった資料を配布する。
---------	--

2025年度

科目名称	動物疾病学
授業コード	AC207
英語名称	Animal Disease
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	渡辺 隆之
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(A) 社会的基礎能力の養成を行う。 本講義の前半では、イヌ・ネコを中心としたペット動物の期間別疾患・病因の理解を図る。後半は内科疾患・外科疾患を病理学的に講義する。最終的に時間があれば、エキゾチックペット動物や大動物の疾患を学ぶ。魚類の疾病についてもできる限り明らかにする。野生動物の人獣共通感染症についても講義できれば幸いである。
科目に関連する実務経験と授業への活用	獣医師として動物病院を開業していた経験をふまえ、実際に現場である動物病院内で自分が経験した動物の疾病の事例、人獣共通感染症について紹介する。獣医師の立場から公衆衛生上問題となる疾病に関して詳しく説明したい。
到達目標	1.豊かな教養と倫理観を身につける。動物における疾病の基礎概念を修得し、疾病について理論的に分析、説明する力と、応用分野である動物保健衛生学や公衆衛生学をより理解し、活用ならびに考察するために必要な分析力を身につけることができる。 2.ヒトと動物の共生をかけるアニマルサイエンス学科のCP、DPには学問上賛同できない部分がある。新型コロナウイルスは人獣共通感染症である。ところが防疫ができていない。ワクチンを接種しても49%ものヒトが感染した。動物への防疫は皆無である。防疫ができない疾病を安全であるとはいえない。学生には共生の難しさを理解してもらいたい。 3.国際的視野を広げ、世界中にある様々な疾病について防疫の大切さを理解してもらいたい。疾病に関する心構えができ、社会貢献できるようになってもらいたい。疾病の概念を理解でき、個々の人獣感染症共通感染症について説明できるようになる。人獣共通感染症のバイオハザード、人獣共通感染症のバイオセーフティー、人獣共通感染症の感染ルート的重要性たる3つを述べるができる。 4.人獣共通感染症の理解を深め、基礎科目の動物病原微生物学、応用科目の動物保健衛生学ならびに動物検体検査学、専門科目の動物疾病学を共に修得することが大切である。これにより、人と動物が共生できる社会を構築しうる人材育成ができる。 5.専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。ディスカッションの時間や発表の時間を設けたい。 6.学科の卒業要件単位以上を修得し、卒業研究の研究をしっかりと完成させ、学士(理学)の学位を授与する。
計画・内容	1) 疾病とはにか 2) 感染症の診断 3) ウイルスの感染症 4) 細菌・真菌・リケッチアなどの感染症 5) 人と動物の共通感染症

計画・内容	6)感染症の化学療法ならびにワクチン 7)飼育環境と感染症、造血系ならびにリンパの疾病 8)呼吸器疾と病因ならびに感染症 9)循環障害、循環器疾患の疾病と病因ならびに感染症 10)消化器疾患の疾病、腹腔の疾病と病因ならびに感染症 11)肝臓、脾臓、膵臓、生殖器の疾患と病因ならびに感染症腫瘍性疾患 12)学生による課題発表 13)泌尿器疾患と病因ならびに感染症ならびに皮膚、筋肉、神経系、眼科、細胞障害と細胞死（アポトーシス）ならびに炎症、免疫疾患等 14)エキゾチック、大動物、実験動物、野生動物、魚類の感染症等 15)総括 経験：獣医師として、動物病院を開業していた者として、特に犬猫の疾病のついて詳しく教えたい。
授業の進め方	講義は、パワーポイントを使用して授業を進める。また、参考書およびプリントを用いる。現実の症例をできるだけ多く紹介して理解を深める。1時限を使い学生に課題発表をさせる。授業を履修するにあたって、授業時間外に予習ならびに復習をする。予習復習はノートを作ること。ネットに頼らず参考書等で調べること。調べた内容は必ずノートに記すること。 予習：予習時間は各項目を最低20分とする（合計30時間）：1) 疾病とはなにか調べましょう。2) 感染症の診断方法には、どのようなものが存在するか調べましょう。3) ウイルスの感染症にはどのようなものがあるか調べましょう。4) 細菌・真菌・リケッチアなどの感染症にはどのようなものがあるか調べましょう。5) 人と動物の共通感染症にはどのようなものがあるか調べましょう。6) 感染症の化学療法ならびにワクチンはどのようなものが調べましょう。7) 飼育環境と感染症、造血系ならびにリンパの疾病を調べましょう。8) 呼吸器疾と病因ならびに感染症にはどのようなものがあるか調べましょう。9) 循環障害、循環器疾患の疾病を調べましょう。10) 食中毒について調べましょう。11) 肝臓、脾臓、膵臓、生殖器の疾患と病因ならびに感染症腫瘍性疾患の疾病について調べましょう。12) 学生による課題発表。13) 泌尿器疾患と病因を調べましょう。14) エキゾチック、大動物、実験動物、野生動物、魚類の感染症等を調べましょう。
能動的な学びの実施	該当しない。
授業時間外の学修	復習：復習は項目ごとに最低でも20分（合計30時間）行う。 予習・復習の合計を60時間とする。
教科書・参考書	参考書： 監訳 並河和彦： 器官系統別犬と猫の感染症マニュアル（インターズー）
成績評価方法と基準	・成績はレポート（試験様式）（50％）、講義単元ごとのレポート（50％）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえレポート、講義単元ごとのレポートを提出していたとしても成績を不可とする。 ・講義単元ごとのレポートは返還はしないものとする(メールなので手元に残る)。レポート（試験様式）に関しては試験に準ずるので返還は行わないものとする。 ・資料配布に関しては掲示板を確認のこと。授業内容にあった資料を配布する。
課題等に対するフィードバック	講義単元ごとのレポートに関しては、別途メールで補足する場合がある。
オフィスアワー	キャンパススクエアを参照
留意事項	動物疾病学は動物内科学の、一部であり、専門科目もしくは応用科目に位置づけられており、動物を学ぶものが、疾病を勉強できるいい機会でもあります。動物に触れることが多い学科であるので、他の科目や実習でも病気について知識が活かされると推測される。事前に履修してほしい科目は、基礎科目の動物病

2025年度

留意事項	原微生物学、応用科目の動物保健衛生学、動物検体検査学である。特に基礎科目である動物病原微生物学の受講は必須であるので必ず履修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面の場合、できればzoomでの講義を行いたい。zoomでの講義であれば通常の対面講義と同じ進め方をする。もし、何らかの事情でzoomでの講義が行えない場合は課題形式の講義として行う。この場合は項目に準じて課題をだす。 非対面で講義の場合、試験が非対面で行うことになった時の成績のつけ方： ・成績はレポート（試験様式）（50％）、講義単元ごとのレポート（50％）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえレポート、講義単元ごとのレポートを提出していたとしても成績を不可とする。これらはキャンパススクエアの掲示板で指示をしてメールで提出とする。 ・講義単元ごとのレポートは返還はしないものとする(メールなので手元に残る)。レポート（試験様式）に関しては試験に準ずるので返還は行わないものとする。 ・資料配布に関しては掲示板を確認のこと。授業内容にあった資料を配布する。

2025年度

科目名称	動物検体検査学
授業コード	AC256
英語名称	Clinical Examination of Animal Disease
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	渡辺 隆之
記入不要 ナンバリ ングコード	AG324B01
授業の概要	(A) 社会的基礎能力 動物の臨床検査の原理、動物の病気ならびに検査方法を習得することにより、社会的な基礎能力を強化する。 前半では、総論として臨床検査で重要な精度管理やヒューマンファクターや医療事故について講義する。後半は各論として、イヌ・ネコを中心としたペット動物の検査方法について学ぶ。病原微生物や人獣共通感染症の法律に基づいた検査方法や一般の臨床検査会社や病院で行っている検査について明らかにする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	獣医師ならびに衛生検査技師として、動物病院ならびに臨床検査会社を経営して、臨床と検査の現場にいて、様々な疾病の検査をしてきた立場から、精度管理、検査方法、様々な疾病、検査会社で起こりうるトラブルについて話します。
到達目標	1.豊かな教養と倫理観をみにつける。感染症の検査方法ならびに技術を習得する。社会や病院における、検査の在り方、成り立ち、法律的な知識といった社会における検査学そのものの役割を知ってもらいたい。 2.ヒトと動物の共生はアニマルサイエンス学科の中核であるが、CP、DPに一部賛同できない部分がある。理由は単純で、新型コロナウイルスは人獣共通感染症である。ところが防疫ができていない。ヒトはワクチン接種しても49%もの人が感染する。動物の防疫は皆無である。この状況で共生は安全を担保できるとは思えない。学生には共生が難しいことを教えたい。 3.国際的視野を広げ、人獣共通感染症や検査方法の理解を深める。基礎科目の動物病原微生物学、応用科目の動物保健衛生学、専門科目の動物疾病学を共に修得することが大切である。 4.動物検体検査学という科目は医学や獣医学においては応用分野の科目群のひとつである。動物の臨床検査ならびに疾病とは何かを理解してもらい、検査方法に興味をもってもらうことにより応用分野の専門知識を修得できる。 5.学科の卒業要件単位以上を修得し、卒業研究を完了したもので、学科として育てたい人間像について十分に身につけていると認められる者に学士(理学)の学位を授与する。
計画・内容	1) 精度管理の仕組みを学習する 2) ヒューマンファクターと医療事故。なぜ事故が発生するのか、そのメカニズムを学習する 3) 臨床検査一般 4) 臨床検査一般 5) 微生物学ならびに公衆衛生学。微生物学とは、公衆衛生学とはどのような学問か、感染症の基礎を学ぶ 6) 細菌の同定方法。細菌同定の基本、細菌同定の心得を学ぶ 7) 細菌の同定方法。細菌同定の方法を学ぶ 8) 真菌の同定方法

計画・内容	9) ウイルスの同定方法 10) 原虫の同定方法 11) 寄生虫の同定方法 12) 学生による課題発表 13) 家畜伝染病予防法に基づく動物の検査、動物の微生物学的な検査方法 14) 人と動物の共通感染症と検査方法 15) 総括
授業の進め方	講義は、パワーポイントを使用して授業を進める。また、参考書およびプリントを用いる。現実の症例をできるだけ多く紹介して理解を深める。1時限を使い学生に課題発表をさせる。授業を履修するにあたって、授業時間外に予習ならびに復習をする。予習復習はノートを作ること。ネットに頼らず参考書等で調べること。調べた内容は必ずノートに記すること。
能動的な学びの実施	該当しない。
授業時間外の学修	復習時間は項目ごとに最低20分（合計30時間）とする。 予習・復習の合計時間は60時間とする。 予習：予習時間は各項目を最低20分とする（合計30時間）：1) 精度管理ならびに精度管理の法律にどのようなものがあるか調べる。2) ヒューマンファクターとして、なぜ事故が起こるのか、事故が起きる環境や特徴にどのようなものがあるか調べる。3) 4) 臨床検査にどのようなものがあるか調べる。5) 公衆衛生学とはどのような学問か調べる。6) 7) 細菌同定の基本にどのようなものがあるか調べる。8) 真菌の同定方法にどのようなものがあるか調べる。9) ウイルス同定にどのようなものがあるか調べる。10) 原虫の同定にどのようなものがあるか調べる。11) 寄生虫の形態ならびに同定にどのようなものがあるか調べる。12) 学生による課題発表：個人に出した課題の勉強。13) 家畜伝染病予防法ならびに検査でどのようなものがあるか調べる。14) 人と動物の共通感染症と検査にはどのようなものがあるか調べる。
教科書・参考書	参考書 福所秋雄 他 動物微生物検査学（近代出版）
成績評価方法と基準	・成績はレポート（試験様式）（80%）、小テスト（20%）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえレポート、小テストを提出していたとしても成績を不可とする。 ・小テストは返還して答え合わせをする。レポート（試験様式）に関しては試験に準ずるので返還は行わないものとする。 ・資料配布に関しては講義の進み具合を見ながら、また、小テストの出来具合に合わせて授業内容にあった資料を配布する。
課題等に対するフィードバック	小テストに関しては講義中に補足する。
オフィスアワー	キャンパススクエアを参照
留意事項	動物検体検査学は、応用科目に位置づけられており、動物を学ぶものが、疾病の検査方法を勉強できるいい機会でもあります。動物に触れることが多い学科であるので、他の科目や実習でも病気について知識が活かされると推測される。特に精度管理が理解できれば、卒業後、一般社会において品質管理や品質保証について応用が効く。事前に履修してほしい科目は、基礎科目の動物病原微生物学、応用科目の動物保健衛生学、専門科目の動物疾病学である。特に基礎科目である動物病原微生物学の受講は必須であるので必ず履修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面の場合、できればzoomでの講義を行いたい。zoomでの講義であれば通常の対面講義と同じ進め方をする。もし、何らかの事情でzoomでの講義が行えない場合は課題形式の講義として行う。この場合は項目に準じて課題をだす。 非対面で講義の場合、試験が非対面で行うことになった時の成績のつけ方：

2025年度

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	・成績はレポート（試験様式）（50％）、講義単元ごとのレポート（50％）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえレポート、講義単元ごとのレポートを提出していたとしても成績を不可とする。これらはキャンパススクエアーの掲示板で指示をしてメールで提出とする。 ・講義単元ごとのレポートは返還はしないものとする(メールなので手元に残る)。レポート（試験様式）に関しては試験に準ずるので返還は行わないものとする。 ・資料配布に関しては掲示板を確認のこと。授業内容にあった資料を配布する。
---	---

2025年度

科目名称	臨床心理学
授業コード	AC308
英語名称	Clinical Psychology
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	門多 真弥
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(A) 社会的基礎能力、(B) 自己実現能力 動物介在介入(AAI)を考える際、我々はどうしても「人と動物の関わり」に視点を向けてしまう。しかし、AAIには人と人との関わりも多く存在し、それらは非常に重要な役割を担っている。 人と人との関わりを取り扱うには、人の心理についての理解と知識、ノウハウが必要とされる。 そこで、人の心の問題に寄り添う学問である臨床心理学を通して、他者、そして自己の理解を深める手がかりを得ることを目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、児童福祉や精神医療の現場での勤務経験を持つ教員が担当する。特に「臨床心理学が扱うこと1・2・3」において、現場で臨床心理学がどの様に活用されているか説明する予定である。 理論だけではなく、現場で用いられる現実的な心理学を通して、より多角的な学びを得てもらいたい。
到達目標	【科目特有の知識・技術についての到達目標】 臨床心理学の観点を通して、自己・他者を考え、こころの世界の理解を深める。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 上記、こころの世界の理解を活用し、他者との関わりをより深みのあるものにすることで、人と人、人と動物の関係についての理解を深める。それを通して「人と動物のよき共生」について考えられるようにする。 【ディプロマポリシー/カリキュラムポリシーにおける到達目標】 心理学は人を支援する学問である。そのため、本講義を通して、ディプロマポリシーにある「豊かな教養と倫理観を身につけ」、「国際的視野に立って、自ら考えて意思決定し、他者と協力しながら問題解決のために行動できる」部分を養えるようにする。 また、カリキュラムポリシーにある「協調性と倫理的判断力をもった人材に必要な、多様な価値観を尊重する姿勢」を身に着けられるようにする。
計画・内容	1) オリエンテーション：講義の概要 2) 心理学とは？概論 3) 臨床心理学の誕生・発展 4) 臨床心理学の誕生・発展 5) 人の成長と心理1 -乳児期から児童期まで- 6) 人の成長と心理2 -思春期から青年期まで- 7) 人の成長と心理3 -中年期から老年期まで- 8) 臨床心理学が扱うこと1 -発達の問題 9) 臨床心理学が扱うこと2 -老いの問題- 10) 臨床心理学が扱うこと3 -心の問題- 11) 臨床心理学の理論・技法 12) 臨床心理学を活用していくために

2025年度

計画・内容	13) 臨床心理学と動物 14) ロールプレイ -臨床心理学を体験する- 15) まとめ
授業の進め方	基本的に講義は、パワーポイントを用いた座学を行う。資料は適宜配布する。
能動的な学びの実施	座学を中心とするが、一部にロールプレイやディスカッションを用いる予定である。 "ただ聞く"だけではなく、自ら考え、体験し、学ぶことを重視する。 また、出席確認に合わせて、ウェブクラスを用いて意見の提出を求める場合がある。
授業時間外の学修	予習：シラバスをもとに、事前学習をおこない、自分が理解できない部分をあらかじめ明らかにしておく(各回1時間) 復習：講義内容を振り返り、疑問のある部分は文献を探すなどして調べる(各回1時間)
教科書・参考書	参考書：よくわかる臨床心理学(ミネルヴァ書房) 面白いほどよくわかる！臨床心理学(西東社) 購入する必要はないが、臨床心理学に興味がある場合、一読するとよい
成績評価方法と基準	・出席確認のコメントの内容(ウェブクラスを利用予定)、ロールプレイの内容：50% ・期末まとめ：50%
課題等に対するフィードバック	・出席確認に合わせて意見の提出を求める場合がある。その内容を、適宜講義に反映させる予定である
オフィスアワー	講義後30分 詳しくはキャンパススクエアを参照すること
留意事項	講義の内容は、必要に応じて変更する可能性がある。その際は適宜説明する
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 授業の進め方 キャンパススクエアを用いて、座学を行う ・授業書類 / 課題を掲示する ・講義のビデオをyoutubeに登録し、視聴する 成績評価方法と基準 出席確認(ウェブクラスを利用予定)のコメントの内容 50% ・期末試験 50% (対面時と同様)

2025年度

科目名称	ペット飼育の心理学
授業コード	AC264
英語名称	Psychology of Pet Ownership
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	門多 真弥, リングホーファー 萌奈美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	A) 社会的基礎能力、(B) 自己実現能力 人と動物の関係を考えるとき、そこには様々な人の心の動きがある。また、その心の動きについて、私たちはどうしてもポジティブな側面にばかり目を向けてしまうが、実はネガティブな部分も少なからず存在している。 これらの、人と動物の関係のなかでもなかなか取り上げられない側面を深く考えることで、思考力、そして、さまざまな視点をもつ力を養ってもらいたい。
科目に関連する実務経験と授業への活用	門多：臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、児童福祉や精神医療の現場での勤務経験を持つ教員が担当する。特に、「ペットロス ～」、「動物虐待 ～」の部分は、実務経験をもとに、人の心の支援に必要な知識を伝えたい。
到達目標	【科目特有の知識・技能についての到達目標】 人間と動物の関係を多方面からみつめることで、汎用的な技能を身につける 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 さまざまな社会問題を考えることで、偏りのない思考力を身につける。そこから、日常の中からさまざまな問題点を抽出し、問題解決にとりくめる能力を修得する 【ディプロマポリシー/カリキュラムポリシーにおける到達目標】 本講義は、人と動物の関係の一側面について深く検討するものである。これは、ディプロマポリシーの「人と動物の『共生』」についての諸問題に関心をもち、合理的な視点から分析・理解して問題解決に寄与できる能力を身につける」ことを目標とする。 また、カリキュラムポリシーの「人と動物の『共生』」についての科学的な専門知識と調査・研究手法を身につける」ことを目標とする。
計画・内容	1)オリエンテーション (門多) 2)人と動物の関係 (門多) 3)ペットロス (門多) 4)ペットロス (門多) 5)ペットロス (門多) 6)動物虐待 (門多) 7)動物虐待 (門多) 8)動物虐待 (門多) 9)ロールプレイ - 動物と人の生活を考える - (門多) 10)ロールプレイ - 動物と人の生活を考える - (門多) 11)「ストレス」を考える (門多) 12)ウマ飼育の心理学(リングホーファー) 13)人と動物の関係 ポジティブな側面 (門多) 14)人と動物の関係 ネガティブな側面(門多) 15)まとめ(門多)

2025年度

計画・内容	
授業の進め方	基本的に講義はパワーポイントを用いて行い、資料は配布する 座学を中心とする
能動的な学びの実施	座学を中心とするが、一部にロールプレイやディスカッションを用いる予定である "ただ聞く"だけではなく、自ら考え、体験し、学ぶことを重視する また、小さな課題に対してウェブクラスにて意見を述べ、提出を求める場合がある
授業時間外の学修	予習：シラバスをもとに、事前学習をおこない、自分が理解できない部分をあらかじめ明らかにしておく (各回1時間) 復習：講義内容を振り返り、疑問のある部分は文献を探すなどして調べる(各回1時間)
教科書・参考書	教科書・参考書 教科書：なし 参考書：「子どもが動物をいじめるとき」フランク・アシオン 「人とペットの心理学: コンパニオンアニマルとの出会いから別れ」濱野佐代子 購入する必要はないが、興味がある場合、一読するとよい また、必要に応じて資料を配布し、図書は講義の中で紹介する
成績評価方法と基準	1/3以上の欠席は認めない ・出席確認のコメントの内容(ウェブクラスを利用予定)、ディスカッションの様子 50% ・期末まとめ 50%
課題等に対するフィードバック	・出席カードに質問・意見などを書く機会を設ける。その内容を、適宜講義に反映させる予定である
オフィスアワー	・講義後の30分をオフィスアワーとする 詳しくはキャンパススクエアを参照
留意事項	講義の内容は、必要に応じて変更する可能性がある。その際は適宜説明する 動物介在介入、心理学に関わる講義を受講していることが望ましい
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	1) オンライン授業 (Zoomなどを用いたリアルタイム形式授業もしくはオンデマンド形式授業) を提供する。 2) 対面授業と同様、以下の評価の予定である ・出席確認時(ウェブクラスを利用予定)のコメントの内容・ディスカッションの様子 50% ・期末まとめ 50%